

イチゴ「熊研い548」の夜冷短日処理開始時期および最終追肥時期が  
開花、収量に及ぼす影響

木場達美<sup>1)</sup>・○山並篤史・岩本英伸・吉田耕起  
(熊本農研せい業・<sup>1)</sup>芦北地域振興局)

【目的】

本県で育成した促成栽培用イチゴ品種「熊研い548」は「とよのか」と比較してポット育苗での頂花房の花芽分化が遅く、出蕾・開花時期および収穫開始時期が遅れる。そこで、前報において効果を確認した夜冷短日処理の実用化のために、処理開始時期および最終追肥時期が開花および収穫開始時期、収量に及ぼす影響について検討した。

【材料および方法】

試験は2005から2006年に熊本県農業研究センターい業研究所で行った。育苗は10.5 cmポットで行い、夜冷短日処理区は処理開始日を8月12日、19日、26日の3水準、最終追肥日を処理開始日の7日前、14日前、21日前の3水準とし、13℃、8時間日長(9時出庫、17時入庫)で処理し、畝幅120cm、株間25cm、2条植え(栽植密度667株/a)で定植した。対照は普通ポット育苗とし、最終追肥を8月15日に行い花芽分化確認した9月30日に定植した。試験規模は1区14株(2.1m<sup>2</sup>)2反復とした。

【結果および考察】

「熊研い548」の花芽分化は、夜冷短日処理によって安定的に促進され、普通ポット育苗に比べ開花が早まり、それにより収穫開始時期の前進化が図られ、年内収量や4月までの収量の増加も認められた。花芽分化確認は、8月12日処理開始区で9月8日、8月19日処理開始区で9月12日、8月26日処理開始区で9月16日となり、処理開始が早いほど花芽分化も早く収穫開始日も前進した。最終追肥日による違いはなかった。収穫開始から8日以内に収穫した果実の平均果重は処理開始が遅くなるほど重くなった。「熊研い548」は大果性が特徴の一つであるが、処理開始が早いと初期の果実が小さくなりその特性が損なわれてしまう。8月26日処理開始区では初期の果実が23 g程度と大きく、また、年内収量も多いことから処理開始日として適すると考えられる。最終追肥時期は処理21日前が花芽分化が安定し、年内収量も多く優れる(第1表)。

第1表 「熊研い548」における夜冷短日処理の効果

処理開始日 <sup>z</sup> (月/日)	最終追肥日 <sup>y</sup> (月/日)	定植日 (月/日)	頂花房			第1腋花房 開花日 (月/日)	年内 収量 (kg/a)	4月 収量 (kg/a)	初期 1果重 <sup>v</sup> (g)
			開花日 <sup>x</sup> (月/日)	開花揃い率 <sup>w</sup> (%)	収穫開始日 (月/日)				
8/12	7/22(21)	9/ 8(27)	10/11	100	11/ 4	12/15	68.8	379.4	16.8
8/12	7/29(14)	9/ 8(27)	10/11	86	11/ 4	12/18	59.1	379.9	17.7
8/12	8/ 5( 7)	9/ 8(27)	10/11	100	11/ 4	12/15	61.9	372.9	16.8
8/19	7/29(21)	9/12(24)	10/16	100	11/ 9	12/19	77.5	375.1	20.3
8/19	8/ 5(14)	9/12(24)	10/18	96	11/11	12/16	68.7	358.6	21.1
8/19	8/12( 7)	9/12(24)	10/18	70	11/11	12/25	44.5	330.4	20.0
8/26	8/ 5(21)	9/16(21)	10/21	96	11/16	12/18	83.4	357.6	22.7
8/26	8/12(14)	9/16(21)	10/23	89	11/16	12/22	74.0	371.8	22.9
8/26	8/19( 7)	9/16(21)	10/24	93	11/18	12/19	69.1	369.7	22.9
普通ポット(対照)		9/30	11/13	89	12/19	1 / 3	37.5	305.1	27.8

<sup>z</sup> 最終追肥日の( )は処理開始前日数を、定植日の( )は処理日数を示す。  
<sup>y</sup> 花芽分化を確認後直ちに定植した。  
<sup>x</sup> 開花日および収穫開始日は50%の株で開花あるいは収穫が始まった日。  
<sup>w</sup> 開花揃い率は最初の株が開花した日から15日以内に開花した株の割合。  
<sup>v</sup> 初期1果重は各区の収穫開始から8日以内に収穫した果実の平均。